



小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	姫路医療生協	代表者	荻野 俊雄	法人・事業所の特徴	「訪問看護」「訪問介護」「通い」「泊まり」の4つのサービスを柔軟に組み合わせ、家庭的な環境で一人ひとりに合わせたスタイルで利用して頂き、在宅を支えます。
事業所名	看護小規模多機能てがら	管理者	橋本 美加		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	6人	人	人	1人	人	2人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	連絡帳を活用し家族との情報共有する。部会などで毎月利用者の目標を周知する。	連絡帳をみていない家族も多く、再度家族へ共有説明が必要。毎月目標、取組みの周知するが日頃の業務に追われ取組めてないことが多い。	見ました。というサイン欄を作成する。独居の方も連絡帳を作成することによって本人が振り返ることができていいのではないか。	連絡帳に記入されている家族からのコメントは職員間で共有する。利用者中心のケアを目指す。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方が訪問しやすい事業所づくりを心がける。		正面玄関入って事業所が2つあるのでどちらに入ればいいか悩む。来客の気配をすぐにわかるようにしてほしい。	正面玄関入る前にインターフォンを鳴らして頂くよう張り紙をし、すぐに対応する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方に気軽に参加して頂けるよう周知して頂く工夫を行う、	コロナ禍のなか地域とのかかわりを持つことが出来なかった。会議以外で地域と協議の取組みが少ない。	コロナ禍のなか地域との関わりを持つことができなかったのは 仕方がない。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事の情報を頂き、参加していく。	地域の行事の案内を確認して、参加できなかった。	コロナ禍のなか地域の行事などの不参加は仕方がない。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	職員が積極的に参加できるようにする。	職員の勤務体制上、所長など一部の職員しか運営推進会議に参加できなかった。	他の事業所では利用者家族やシニアクラブの方々も参加されていた。	多職種が参加できるよう勤務調整を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	ハザードマップを用い、避難所の確認、安全面での確認を行う。	事業所内での避難訓練は実施しているが、災害時の避難場所など周知出来ていない。	避難訓練に参加したい。	地域の方々にも避難訓練に参加して頂く。地域の避難場所を職員全員が把握する。